

2024年度 環境活動レポート

(期間2023年8月1日～2024年7月31日)



イデアシステム株式会社

長野産環協 0000500

発行 2024 年 10月 29日

1 組織の概要

(1) 事業社名及び代表者氏名 環境代表者

イデアシステム株式会社	代表取締役社長	小林 弘
-------------	---------	------

(2) 所在地

本社	〒394-0004 長野県岡谷市神明町4-1-21
東京支店	〒175-0004 東京都板橋区板橋1-42-13 大佳板橋ビル4階B号室

(3) 環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者	品質保証部 部長	小沢 岳志
担当者	品質保証部	中野 智之
EA21推進委員会	営業部:宮坂正彦、開発営業部:宮澤寛志、製造技術部:松岡絵美子、森山隼介 開発技術部:姉崎貴大、管理部:堀川史枝、総務部:宇治浩	
連絡先	TEL. 0266-24-2744 FAX. 0266-24-2773 mailto:info@idea-gr.co.jp	
ホームページ	http://www.idea-gr.co.jp/	

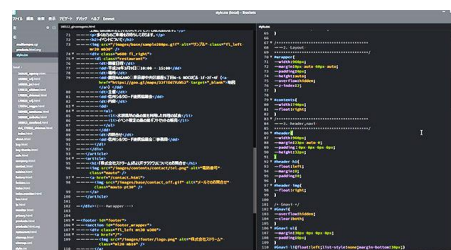
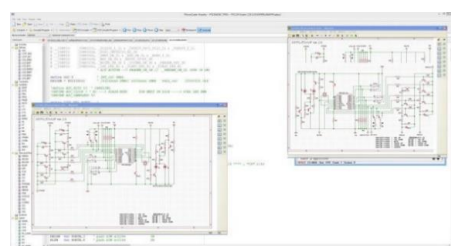
(4) 事業内容

電子機器等の受託開発・設計・部品調達から製造(組立)

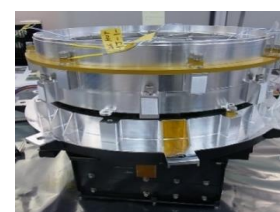
(5) 事業規模

資本金	社員数	延床面積
7,500万円	本社・工場 35名 東京支店 14名	工場棟 863㎡、管理棟 474㎡、事務棟 558㎡

基板設計、パッケージ設計



製造、組立



(6) 【社 是】

私達は充実した会社を作り社会と共に「ゆたか」で「ゆとり」のある生活を営みます。

(7) 【経営理念】

- 1 社会の役に立ちます
私達は日々得意技&特異技を磨き、ユーザーウォンツに応じて創り(製品&パートナー)、販売して、社会に役に立ちます。
- 2 適正な利潤を生みます
会社と従業員は相互協調し、適正な利潤を生み出し、ロマンとB/Sがバランスしている会社になります。
- 3 成長し続けます
いかなる企業の傘に入らず、自主自立し、自らの力で創り、自らビジネスし、自らの力で成長し続けます。

(8) 【品質マネジメント方針】

スローガン

【ピンチをチャンスに強みを伸ばすやるべきことをやりきる】

- ①営業力強化
攻めの営業 訪問増やす、開拓・提案営業、ウォンツ見つけて提案
(優良直接ユーザー、異分野多分野ユーザー)
取引先とのパイプ強化 上層部とのつながりも重要、執行役員制
東京営業増強 増員で対応案件増、エリア広げて事業拡大
- ②技術力生産力向上
調達生産柔軟化、生産性向上(多能工化進める、生産・調達DXに着手、情報共有(CRM))
次世代接合技術挑戦(狙いを定める)
情報通信(DX、IoT)でシステム開発 開発開拓の分野集中
- ③利益改善
価格転嫁 粗利率アップ(10%上げる)、工数見積も10%アップ、経費分も価格転嫁
原価低減 ムダ・ムリ・ムラ改善、調達改善

(9) 【品質環境経営目標】

- ① 積極的なユーザー訪問、情報提供、提案で新顧客、新規テーマを開拓しよう
情報収集や提案でのユーザー訪問を実施
- ② 顧客満足を第一に考え、品質と対応で満足・感謝してもらえるよう、オールイデアで対応しよう
品質力、顧客満足の向上 クレーム半期5件以下、ユーザー評価ランク向上
- ③ SDGs目標達成に向けて積極的に取り組もう
CO2排出量の削減 年間4%
雇用職場環境改善 労働管理改善、地域人材採用、女性管理職登用増
社会・環境問題を解決する製品・サービスの創出 各事業常時1件取り組む
- ④ 安定的に利益を上げ、ルールとマナーを守り、働きやすい、働き甲斐のある健全な会社になろう

売上目標達成 ⇒ 通期売上 10億 粗利 3.8億 損分3.7億 損分比 101%
半期売上 5億 粗利 1.9億

(半期 部署別 売上目標)

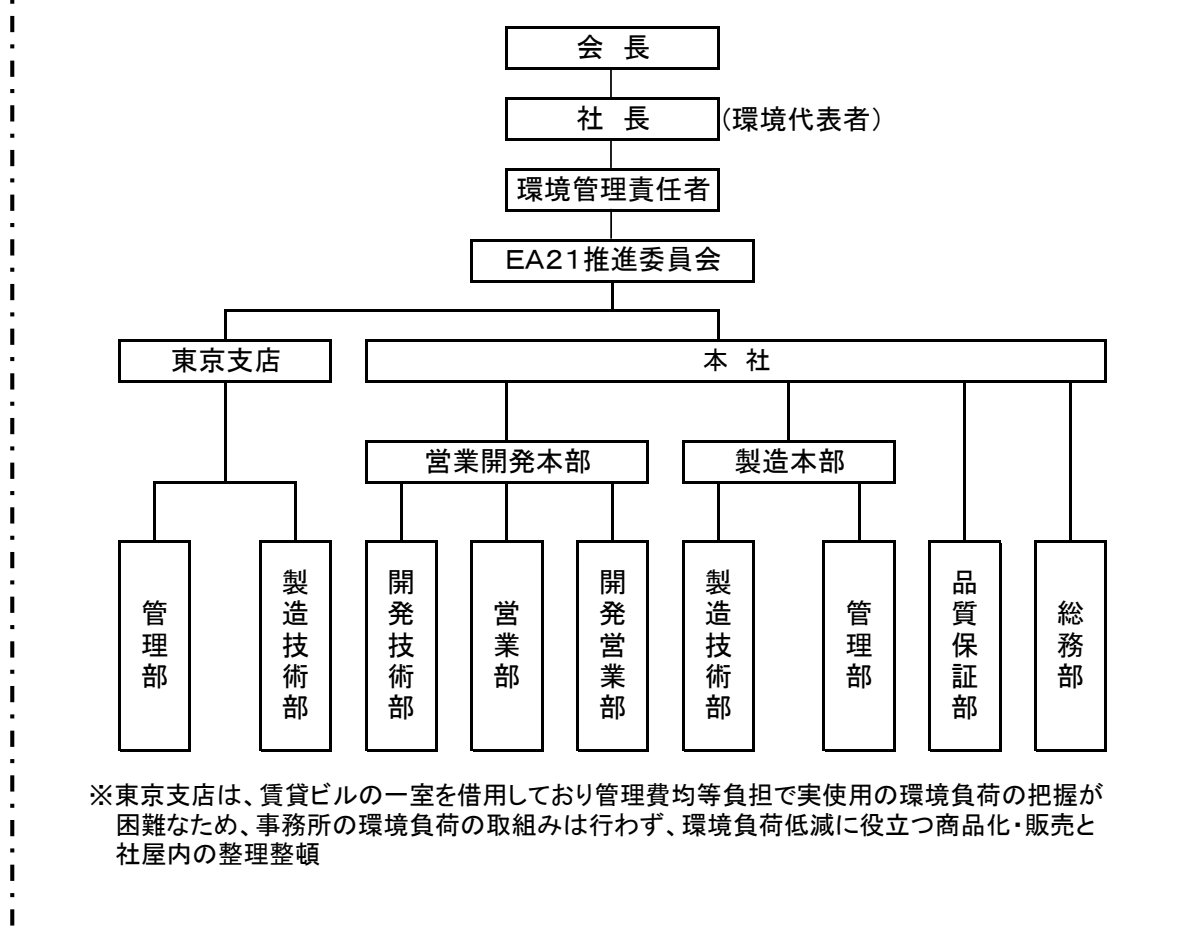
	東京支店	システム事業部	半期計
売上	15,000万	35,000万	50,000万
粗利	4,500万	14,500万	19,000万

2 認証・登録の対象組織・活動

(1) 登録範囲: イデアシステム株式会社(本社、東京支店)

(2) レポート対象期間: 2023年8月～2024年7月

(3) 環境経営組織図及び役割・責任・権限表



役割・責任・権限	環境代表者	・環境経営に関する統括責任者 ・環境経営方針の策定・見直し及び全従業員への周知 ・環境経営目標・環境活動計画書の承認
	環境管理責任者	・環境マネジメントシステムの構築・実施・管理 ・環境関連法規制等のとりまとめ ・環境経営目標・環境活動計画書の立案
	EA21推進委員会	・環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ・環境活動の実績集計 ・環境レポートの作成、公開 ・環境責任者の補佐
	各部門	・環境経営方針の理解と環境への取組の重要性の周知と自覚 ・自主的・積極的に参加

3 環境経営方針

私たちの事業活動は、その多少に関わらず地球環境に影響を与えます。
環境への影響を最小限にとどめることは、当社の社是“社会と共に「ゆたか」で「ゆとり」のある生活を営む”
また、当社経営理念“社会の役に立つ”と、同意でもあり、また、ユーザーウォンツに応える事でもあります。
奇跡の星“地球”を健全な状態で次世代に引き継いでいくための環境づくりやSDGsの達成に積極的に貢献します。
環境経営の継続的改善を誓約します。

施策

1. 温暖化防止、資源の有効活用等の為、事業遂行過程においてエネルギー効率の向上、省資源、再資源の活用、工程改善、無駄の削除に積極的に取り組みます。
2. 環境に関する国際規格、法令、協定、指針、自主規制を遵守します。
3. 環境への負荷の低減に役立つ商品化をめざし、グリーン調達、環境配慮設計に取り組みます。
4. 化学物質の適正管理に取り組みます。

2008年10月01日 制定

2022年10月11日 改定

イデアシステム株式会社 代表取締役社長 小林 弘

4 環境経営目標

No.	削減項目		2023年度結果	2024年度		2025年度	2026年度	2027年度
	削減率		基準値	目標低減率	目標値	目標値	目標値	目標値
①	電力消費	総量Kg-CO2	166,991	3%	161,981	157,122	152,408	147,836
		原単位Kg-CO2/百万円	145		141	137	133	129
	ガソリン	総量Kg-CO2	37,665	10%	33,899	32,204	30,594	29,064
		原単位Kg-CO2/百万円	20.9		18.8	17.9	17.0	16.1
	軽油	総量Kg-CO2	15,450	10%	13,905	13,210	12,549	11,922
		原単位Kg-CO2/百万円	13		12.1	11.5	10.9	10.4
	灯油	総量Kg-CO2	19,838	10%	17,854	16,961	16,113	15,308
		原単位Kg-CO2/百万円	17		15.5	14.8	14.0	13.3
	二酸化炭素排出量合計	総量Kg-CO2	239,944	4%	230,346	221,132	212,287	203,795
		原単位Kg-CO2/百万円	197		189	182	174	167
②	水道使用量	総量m ³	515	3%	500	475	451	428
		原単位m ³ /百万円	0		0.43	0.41	0.39	0.37
③	廃棄物	総量Kg	1,120	10%	1,008	958	910	864
		原単位Kg/百万円	1		0.9	0.8	0.8	0.8
④	コピー用紙	総量枚	47,500	10%	42,750	40,613	38,582	36,653
		原単位枚/百万円	41		37.2	35.4	33.6	31.9
⑤	エコ製品へ切替え		1	80%	80%	85%	85%	85%
⑥	化学物質の管理		適正管理維持	適正管理維持	適正管理維持	適正管理維持	適正管理維持	適正管理維持
⑦	環境負荷低減に役立つ商品化・販売		20	10%	10%	5%	5%	5%

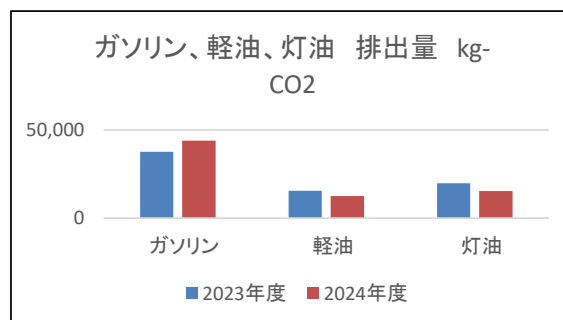
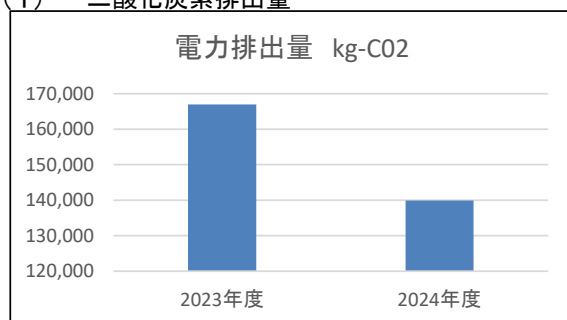
※前年度を基準値として目標低減率を設定

5 環境経営計画

No.	項目	目標達成のための計画
①	電力量	・省エネ設備への切り替え ・始業5分前の照明点灯、昼休みの消灯 ・不要時や終業時の消灯活動継続 ・PC、機器の不使用时電源OFF、待機状態設定励行 ・デマンド監視によるピーク電力規定値オーバー時のエアコン遮断 ・暖房温度設定22℃、冷房温度設定28℃の継続
	ガソリン	・不必要なアイドリングの禁止 ・定期メンテナンス ・燃費向上を意識した運転 ・エコカーへの切り替え
	軽油	・不必要なアイドリングの禁止 ・定期メンテナンス ・燃費向上を意識した運転
	灯油	・暖房設備使用時の出入り口開放禁止
②	水道使用量	・トイレ水道使用量の節約継続(漏水や自動流水器の点検)
③	廃棄物	・樹脂洗浄液のリサイクル化、納入先への持ち込み制限働きかけ ・不用品の分別継続 ・マニフェスト伝票の発行、回収、5年間保存 ・廃棄物保管場所の整理整頓と表示
④	コピー用紙	・社内資料の電子データ化運用 ・使用済みコピー用紙の裏面使用 ・裏面使用コピー用紙置場をコピー機側に設置
⑤	エコ製品へ切替え	・消耗品などリサイクル品を活用
⑥	化学物質の管理	・グリーン調達管理
⑦	環境負荷低減に役立つ商品化・販売	・エコ商品の受託開発 ・商品の設計開発時における環境配慮

6 環境経営計画に基づき実施した取組内容

(1) 二酸化炭素排出量



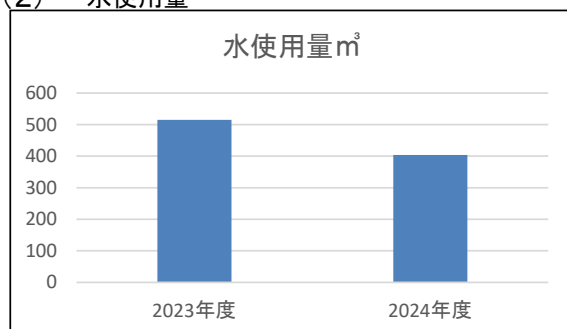
【取組結果と評価】

工場棟のエアコン入れ替え等で電力使用量が下がっていることとエコ意識の浸透も相乗効果として表れたと思われる。また、ガソリンは営業活動が多くなり増加している。軽油は遠方出張がなくなったことで削減している。

【次年度の取組】

電気設備についてはメンテナンス等で消費電力を抑えることができるので、社員に周知し、エコ意識の向上を図っていく

(2) 水使用量



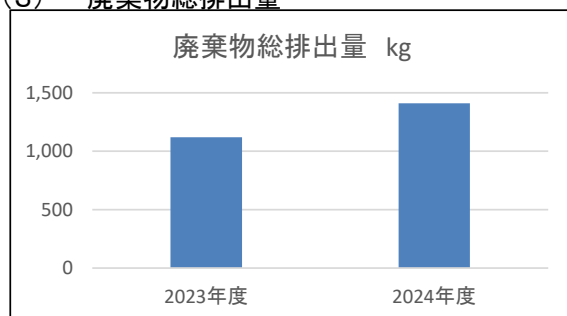
【取組結果と評価】

社内トイレの不具合(水漏れ)を改善したことにより、無駄な消費を抑えることが出来た。

【次年度の取組】

老朽化などの社内設備についてメンテナンスや修理を行っていく。

(3) 廃棄物総排出量



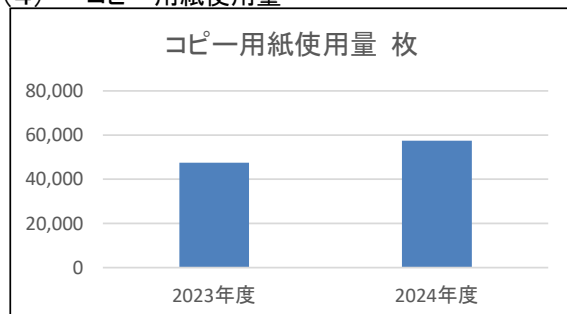
【取組結果と評価】

社内の2S推進でデッドスペースの削減を実施したことにより、廃棄物が増えた。

【次年度の取組】

廃棄物を増やさないように、常日頃意識向上を周知していく。

(4) コピー用紙使用量



【取組結果と評価】

新規製品立ち上げ及び外注展開による、ドキュメント類の作成が増えたため、使用量が増えた。

【次年度の取組】

新規立ち上げや外注展開時のドキュメントの電子化検討を行っていく。

7 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果

No.	削減項目		前年値	目標値	結果	前年比	目標比	評価	
①	電力消費	総量 Kg-CO2	166,991	161,981	139,874	16.3%削減	13.7%削減	○	○
		原単位 Kg-CO2/百万円	145	141	145	0.6%削減	2.5%増加	○	×
	ガソリン	総量 Kg-CO2	37,665	33,899	43,867	16.5%増加	29.5%増加	×	×
		原単位 Kg-CO2/百万円	20.9	18.8	45.3	17.1%増加	41.2%増加	×	×
	軽油	総量 Kg-CO2	15,450	13,905	12,460	19.4%削減	10.4%削減	○	○
		原単位 Kg-CO2/百万円	13.5	12.1	12.9	4.3%削減	6.4%増加	○	×
	灯油	総量 Kg-CO2	19,838	17,854	15,420	22.3%削減	13.7%削減	○	○
		原単位 Kg-CO2/百万円	17.3	15.5	15.9	7.8%削減	2.6%増加	○	×
	二酸化炭素 排出量合計	総量 Kg-CO2	239,944	230,346	211,621	11.9%削減	8.2%削減	○	○
		原単位 Kg-CO2/百万円	197	189	219	11%増加	15.6%増加	×	×
②	水道使用量	総量 m ³	515	500	404	21.6%削減	19.2%削減	○	○
		原単位 m ³ /百万円	0.45	0.43	0.42	6.9%削減	4.1%削減	○	○
③	廃棄物	総量 Kg	1,120	1,008	1,410	25.9%増加	39.9%増加	×	×
		原単位 Kg/百万円	1.0	0.9	1.5	49.5%増加	66.1%増加	×	×
④	コピー用紙	総量 枚	47,500	42,750	57,500	21.1%増加	34.6%増加	×	×
		原単位 枚/百万円	41.4	37.2	59.4	43.7%増加	59.7%増加	×	×
⑤	エコ製品へ切替え		80.0%	80.0%	80.0%	100%	94%	○	○
⑥	化学物質の管理		適正管理維持	適正管理維持	適正管理維持	100%	100%	○	○
⑦	環境負荷低減に役立つ商品化・販売		20	10	20	63%	200%	○	○

○:達成 ×:未達成 (①～④はマイナス数値で達成 ⑤～⑦はプラス数値で達成を示す)

※1. 契約電力会社(株式会社エネット)2023年度調整後排出係数「0.370(t-CO2/kWh)」

※2. ①の二酸化炭素排出量は、ガスと廃プラ除く(二酸化炭素総排出量:211,653 kg-Co2)

8 次年度の環境経営目標及び、環境経営計画

No.	項目	目標達成のための計画	次年度の取組内容
①	電力量	・省エネ設備への切り替え	継続
		・始業5分前の照明点灯、昼休みの消灯	継続
		・不要時や終業時の消灯活動継続	継続
		・PC、機器の不使用时電源OFF、待機状態設定励	継続
		・デマンド監視によるピーク電力規定値オーバー時のエアコン遮断	継続
		・暖房温度設定22℃、冷房温度設定28℃の継続	継続
	ガソリン		継続
		・不必要なアイドリングの禁止	継続
		・定期メンテナンス	継続
		・燃費向上を意識した運転	継続
	軽油	・エコカーへの切り替え	継続
			継続
		・不必要なアイドリングの禁止	継続
	灯油	・定期メンテナンス	継続
		・燃費向上を意識した運転	継続
			継続
②	水道使用量	・暖房設備使用時の出入り口開放禁止	継続
			継続
			継続
③	廃棄物	・トイレ水道使用量の節約継続(漏水や自動流水器の点検)	継続
			継続
			継続
		・樹脂洗浄液のリサイクル化、納入先への持ち込み制限働きかけ	継続
		・不用品の分別継続	継続
④	コピー用紙	・マニフェスト伝票の発行、回収、5年間保存	継続
		・廃棄物保管場所の整理整頓と表示	継続
			継続
			継続
⑤	エコ製品へ切替え	・社内資料の電子データ化運用	継続
		・使用済みコピー用紙の裏面使用	継続
		・裏面使用コピー用紙置場をコピー機側に設置	継続
			継続
⑥	化学物質の管理	・消耗品などリサイクル品を活用	継続
			継続
⑦	環境負荷低減に役立つ商品化・販売	・グリーン調達管理	継続
			継続
		・エコ商品の受託開発	継続
		・商品の設計開発時における環境配慮	継続
			継続

9 環境関連法規等の遵守状況の確認、評価の結果並びに違反、訴訟の有無

法・規制名称	該当事項	要求事項	確認
騒音規制法 R3.4.1 施行	空気圧縮機7.5KW以上 (7.5KW,11KW,15KW各1台)	騒音計測・設置届 (岡谷市公害防止条例) R4年.11.3 会社周辺騒音測定実施⇒問題なし	○
振動規制法 H.6.6.30 施行		設置届 (岡谷市公害防止条例)	○
有機溶剤中毒予防則 R5.4.21 施行	第2種有機溶剤 (イソプロピルアルコール)	局所排気装置設置/作業主任者選任/特殊健康診断実施報告 環境測定(有機溶剤2回/年)第1管理区分 局所排気点検、特殊健康診断 (1回/年)	○ ○ ○ ○
鉛中毒予防則 R5.4.01 施行	共晶はんだ	環境測定(鉛 1回/年) 第1管理区分 特殊健康診断 (1回/年)	○ ○
毒物及び劇物取締法 R4.6.17 施行	UF-2186A内メチレンビス(4.1-シクロヘキシル)=ジイソシアネート(毒物) UF-1113A内メチレンビス(4.1-フェニレン)=ジイソシアネート(毒物)	漏えい/地下浸透の防止 表示(容器、保管場所)含有1%で非該当	該当なし ○
消防法 R4.6.17 施行	灯油 第二種石油類	表示・届出(少量危険物の貯蔵)	○
特定家庭用機器再商品化法 R2.4.1 施行	冷蔵庫、テレビ等	リサイクル料の支払い(買取/廃棄)	○
小型家電リサイクル法 H25.4.1施行	携帯、デジカメ、電源アダプタ等	指定業者へ資源として回収確認	○
自動車リサイクル法 R元.12.14 施行	所有自動車の廃棄	リサイクル料の支払い(買取/廃棄)	○
フロン排出抑止法 R1.10.4改正 R2.4.1 施行	業務用エアコン(第一種)の日常管理・廃棄 フロン類改修に伴う罰則	定期点検と記録、改修依頼書又は委託確認書の受領と3年間保管 フロン類を回収しないまま機器を廃棄した場合50万以下	○
廃棄物処理法 H29.6.16改正 第12条2項(保管の基準) 第12条5項、6項 (委託の基準) 第12条7項 (委託先の処理確認) 第12条3項 (マニフェスト伝票発行報告)	産業廃棄物(廃プラ、金属くず等) 特別管理産業廃棄物(廃油)	廃棄物(特管)置場の保管基準の厳守 廃棄物の収集運搬/処理業者と委託契約の締結 廃棄物の収集運搬/処理業者の廃棄物委託管理調査実施 マニフェスト伝票の発行/回収/5年間保管/発行状況の県への報告(毎年6月30日まで) 2023年6月7日 報告済み 特別管理廃棄物管理責任者の選任 特別管理産業廃棄物管の帳簿(マニフェスト台帳)を備え5年間保管	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
取引先要求	環境管理	環境品質保証体制 原材料選定体制 不適合管理体制 化学物質含有調査 等 ※主要取引先 5案件について調査済	○

環境基本法

循環型社会形成推進基本法 H24.6.27施行	発生の抑制、再利用、再生利用、熱回収、適正処分	○
国等による環境物品等の調達の推進に関する法律 (グリーン購入法) H27.9.11改正	環境物品の調達の推進	○
資源の有効な利用の促進に関する法律 H26.6.13改正	資源の有効利用、廃棄物の抑制、再生品の利用	○

当社に適用される環境関連の法規は、定期的にチェックしており、違反は現在及び過去三年間発生していない。また、関係機関や近隣住民からの苦情や訴訟も起きていない。

10 教育、実施訓練及び、近隣への社会貢献

(1) 社内消火器訓練(2023年9月19日)



社内で火災が発生したことを想定し、消火器の使用方法について訓練を行った。指導者は地区の消防団へ所属している社員より消火器の開栓や目標物へのノウハウを社員全員で共有した。

(2) 職場体験学習(2024年7月12日)



今年度は、社会貢献の一環として中学生へのインターンシップを行った。当日は近隣の中学校より来社してもらい、実際の職場の雰囲気を経験してもらった。毎年実施する予定で、積極的に地域活動に貢献して行きたい。(岡谷北部中学校)

11 代表者による全体評価と見直し

今年度は業務内容に変化があったこともあるが、二酸化炭素排出量を大幅に削減できた。特に電力消費の削減は顕著で、主に設備更新の影響が大きいと考えられる。エネルギー高の経営に与える影響は引き続き拡大しているほか、環境負荷が気候変動に与える影響も大きいと考えられる。

今後も省エネ設備への更新を進めるほか、行動や業務の効率化の意識を高め、継続的に環境負荷軽減に取り組んでいきたい。

環境負荷軽減において効果が認められることから、環境経営方針については現内容を継続する。

代表取締役 社長 小林

